

2022年度原町田大通り社会実験 報告書



2023年1月
町田市経済観光部産業政策課
株式会社町田まちづくり公社

目次

1 開催概要	
(1)概要	2
(2)実施場所及び現地写真	3
2 実施結果(休憩スペースの運営)	
(1)来街者アンケート調査	4
(2)定点観測カメラに基づく配置の検証	4
(3)キッチンカー出店者アンケート	5
(4)休憩スペース周辺の清掃	6
3 実施結果(滞留空間の貸出)	7
4 周辺への波及効果の検証結果	
(1)歩行者滞留行動調査	8
(2)周辺商店会、大型店関係者へのアンケート	9
5 考察(滞留空間の機能)	
(1)設置物について	10
(2)レイアウトについて	12
(3)日常管理について	14
(4)貸出スペースとしての機能について	15

6 2021年度原町田大通り社会実験について	
(1)概要	16
(2)滞留空間の振返り	16
7 滞留空間整備の方向性について	17

1 開催概要

(1)概要

【期間】 2022年10月8日(土)～11月6日(日)

【目的】 2023年度に原町田大通りに整備を予定している滞留空間について、2022年度に行っている滞留空間の設計に反映するためのストリートファニチャー等の配置の検証、整備後の運用に係る検証を行う。

【主催】 町田市、(株)町田まちづくり公社(都市再生推進法人)

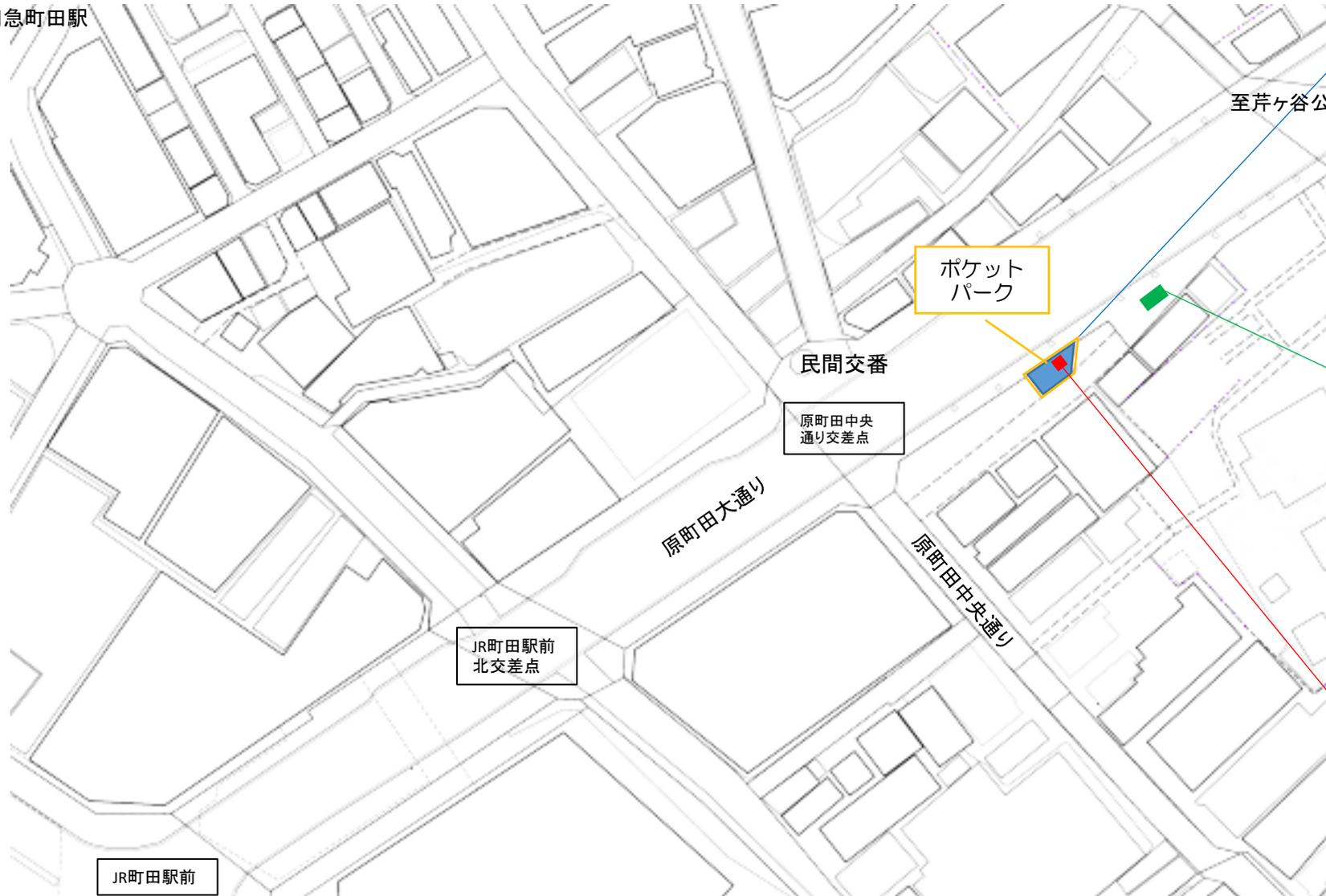
【内容】

項番	内容	日時		
1	休憩スペースの運営 ①カウンターテーブルやベンチ、植栽の設置 ②キッチンカーの出店	①(夜間も含めて)終日開放		
		②		
		日時	内容	出店時間
		10/8(土)・21(金)	クレープ・ドリンク	11時～17時
10/29(土)・30(日)	コーヒー他			
11/4(金)・5(土)	コーヒー・ワッフル			
2	滞留空間の貸出	<募集日時> 10/9(日)、10(月・祝)、14(金)、15(土)、16(日)、 22(土)、23(日)、28(金)、11/3(木・祝)、6(日)の 11時～19時		

1 開催概要

(2)実施場所及び現地写真

小田急町田駅



1-①カウンターテーブル、ベンチ、植栽設置後のポケットパーク



1-② キッチンカーの出店場所

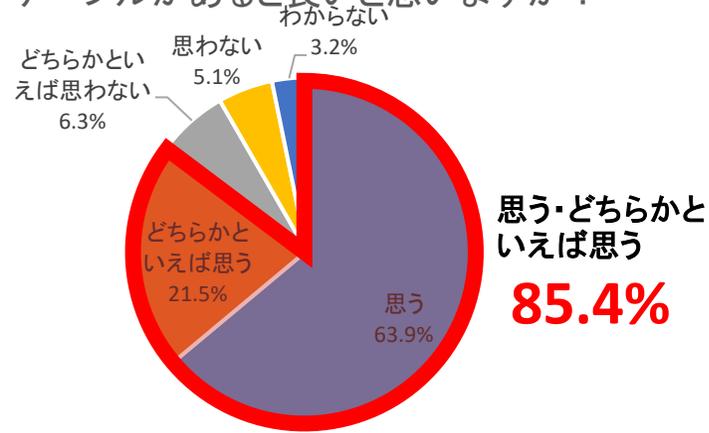


2 ポケットパークの貸出区画

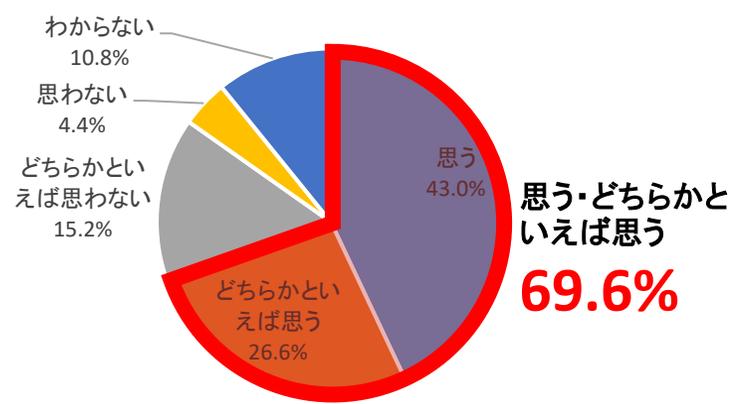
2 実施結果(休憩スペースの運営)

(1) 来街者アンケート調査<有効回答数:158>

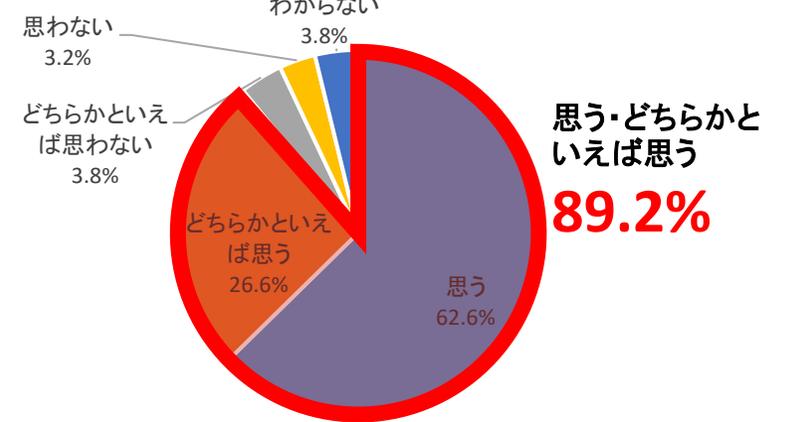
通り沿いに休憩できるイスやベンチ、テーブルがあると良いと思いますか？



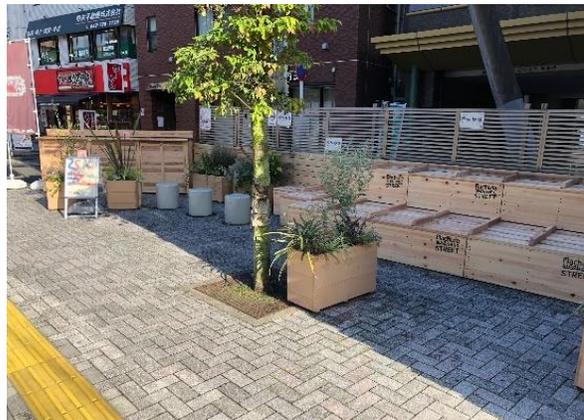
通り沿いにキッチンカーが出店していたら、利用したいと思いますか？



通り沿いに街路樹や花壇、観葉植物などの緑があった方が良いと思いますか？

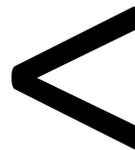


(2) 定点観測カメラに基づく配置の検証



大きな段付きベンチを1か所設置

利用者数



より多くの利用があった

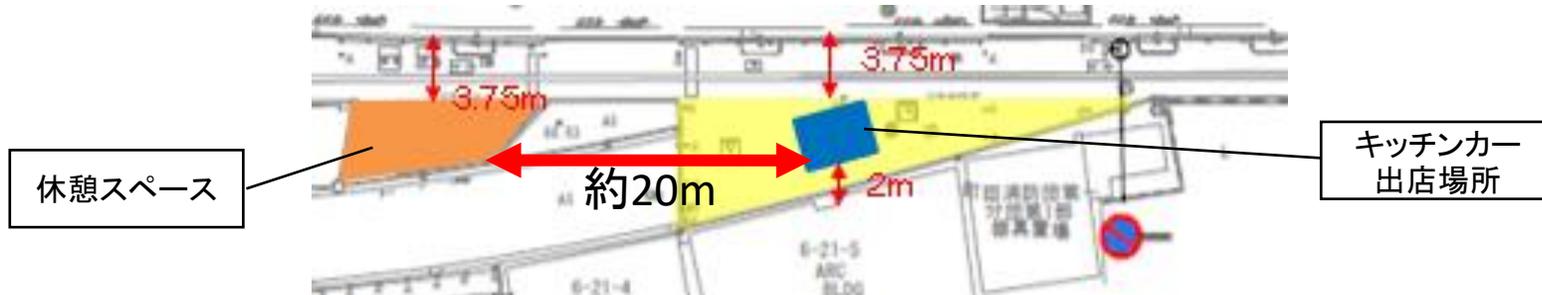
小さなベンチを組み合わせで設置

日中時間帯の利用が多く、20時以降は利用者が激減していた。

2 実施結果(休憩スペースの運営)

(3)キッチンカー出店者アンケート<3事業者>

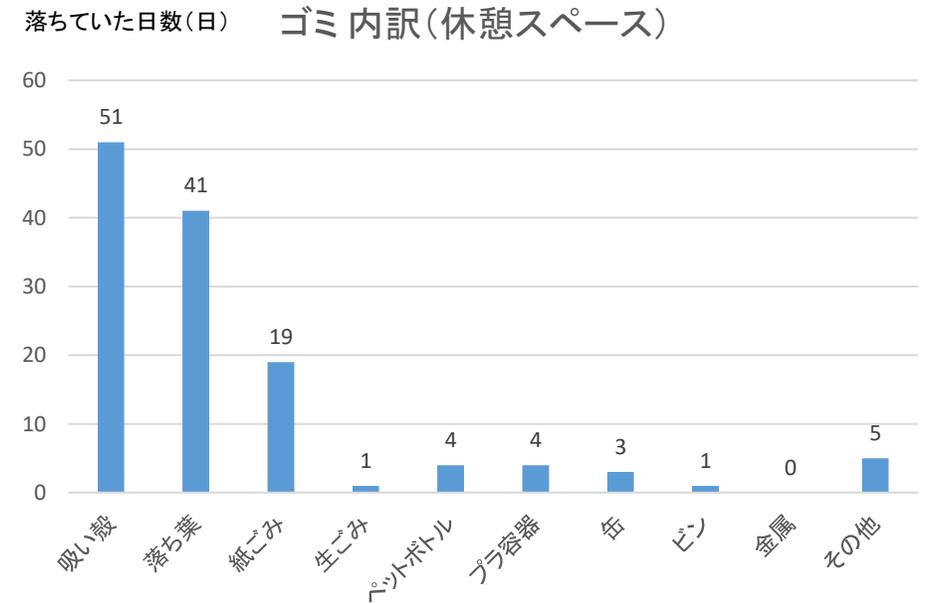
- 事業者は町田市観光コンベンション協会会員の中から選定。
- 来客数、売上ともに普段の出店場所と比べて「少ない」という回答が3件。
※「多い」、「どちらかと言えば多い」、「どちらかと言えば少ない」、「少ない」、「どちらともいえない・変わらない」から選択
- 自由意見として、人通りがあるものの通りを歩いている来街者からの視認性が悪く目立たなかった、休憩スペースと離れていたため、足を止めてひと休みしたくなるような雰囲気が来街者に伝わらなかった、という意見があった。



2 実施結果(休憩スペースの運営)

(4)休憩スペース周辺の清掃

- 朝・夜の1日2回×30日間、休憩スペース周辺の清掃を実施。
- ゴミの内訳としては、吸い殻・落ち葉・紙ごみが主で、特に吸い殻については毎日捨てられていた。
- 清掃毎のゴミの量は、片手で一握り程度。



3 実施結果(滞留空間の貸出)

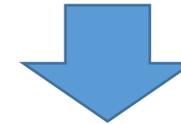
貸出条件	
募集区画	1区画 2m×2m
金額	3,000円/日 タープtent付
募集日程	10日間

利用状況	
貸出日	3日間(1事業者)
利用目的	音楽ワークショップでの利用

出店者へのアンケートによると「また原町田大通りの沿道空間を利用したいか」という質問に「使いたい」、理由としては「人通りが多いし、よい賑わいがある」との回答だった。



休憩スペースとしての利用時



ファニチャーの配置を変更して活用



貸出スペースとしての利用時

4 周辺への波及効果の検証結果

(1) 歩行者滞留行動調査

- 原町田大通りと、本社会実験と同時開催で社会実験を実施していた原町田中央通りの滞留者数を調査したところ、2020年度に調査した日常時の滞留者数と比較して滞留者数が大幅に増加した。

2020年：日常時

滞留者数 平日 153人
 休日 551人
その内、
楽しむ様子 平日 59人
 休日 190人



2022年：社会実験時（今回）

滞留者数 平日 508人
 休日 880人
その内、
楽しむ様子 平日 189人
 休日 435人

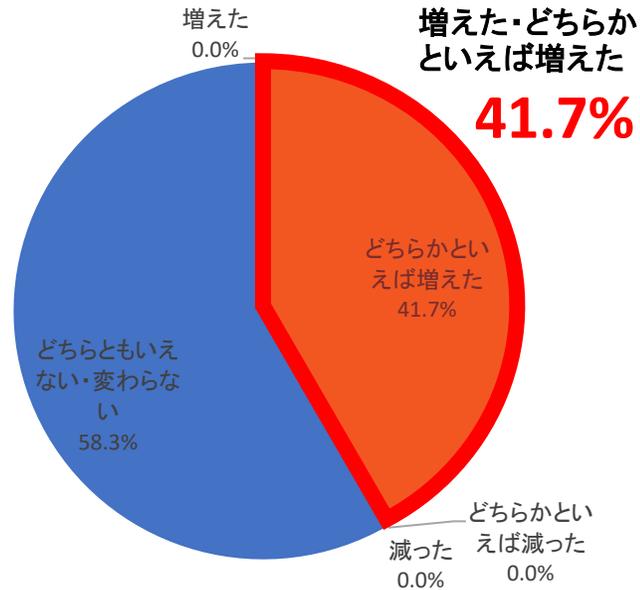


調査日時：2022年10月28日(金)、29日(土) 各日10時～17時30分
※2020年度は2020年12月20日(日)、21日(月) 各日10時～17時30分で調査を実施

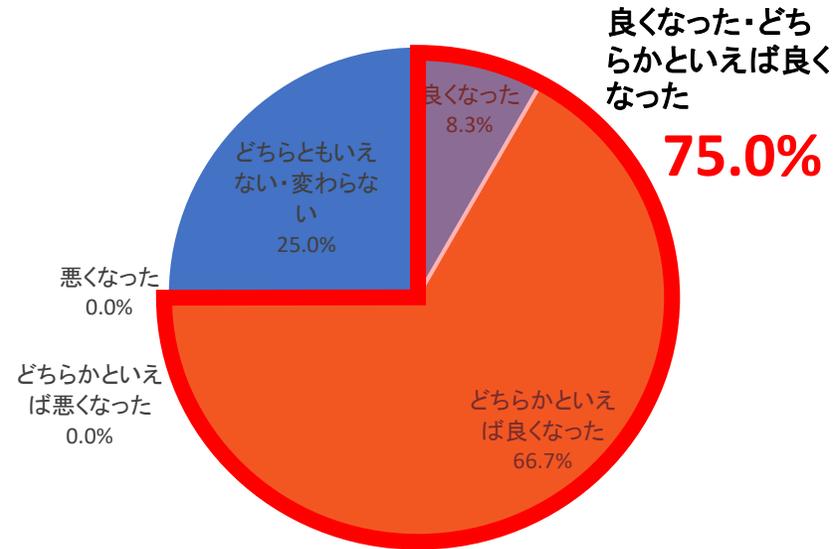
4 周辺への波及効果の検証結果

(2) 周辺商店会、大型店関係者へのアンケート<有効回答数:12>

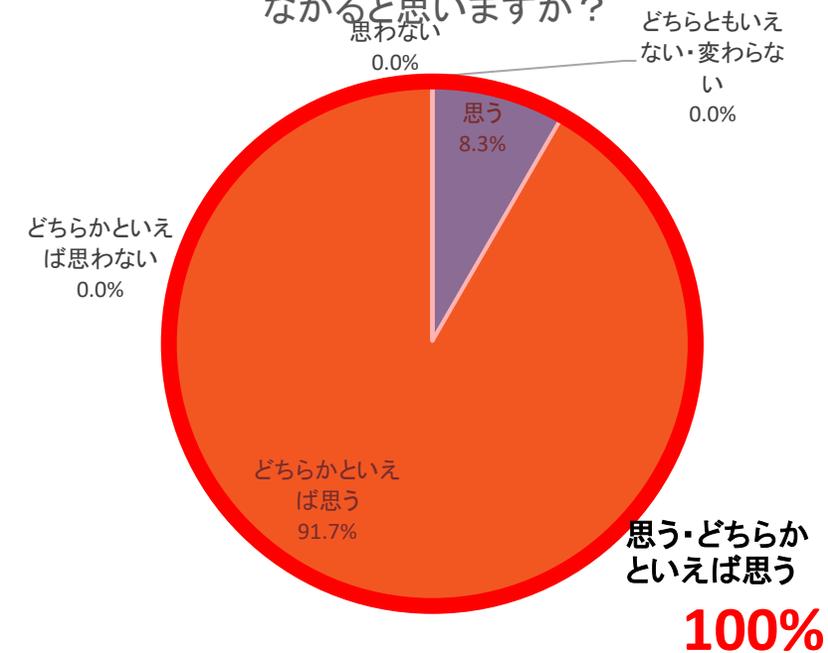
社会実験中、町田駅周辺の中心市街地の
人通りは変わったと思いますか？



社会実験中、町田駅周辺の中心市街地の
雰囲気は変わったと思いますか？



今回の社会実験のような取り組みは、来
客数や売上の増加などの経済効果につ
ながると思いますか？



町田駅周辺の中心市街地の人通りは「どちらかといえば増えた」が4割、「どちらともいえない・変わらない」が6割であったが、中心市街地の雰囲気については「良くなった・どちらかといえば良くなった」と答えた方が7割以上であった。また、今回の社会実験のような沿道を活用した取り組みについては経済効果につながるという意見が10割であった。

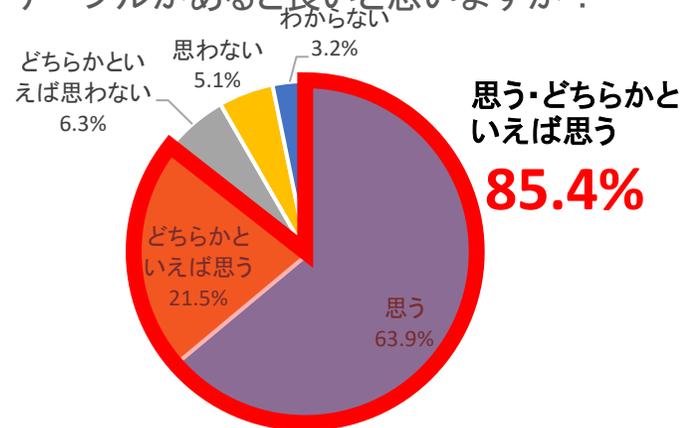
5 考察(滞留空間の機能)

(1)設置物について

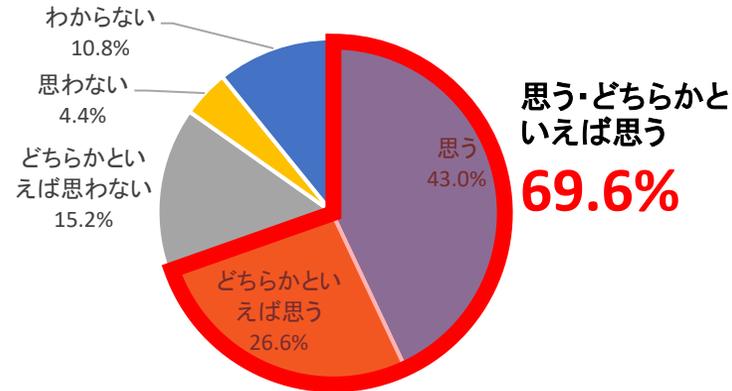
- 来街者アンケートより、滞留空間等の機能として「あった方が良くと思う」、「どちらかといえばあった方が良く思う」との回答があった割合がベンチ等は85.4%、キッチンカー出店は69.6%、緑は89.2%であった。この結果からベンチ等、キッチンカー出店、緑のいずれの機能も多くの来街者から求められている。

来街者アンケート調査<有効回答数:158>

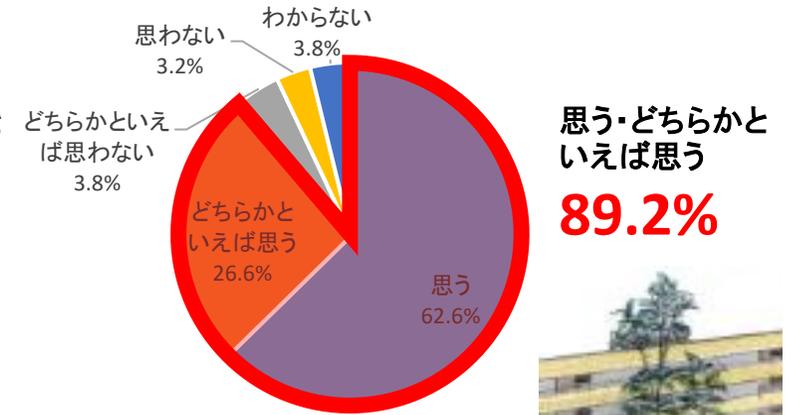
通り沿いに休憩できるイスやベンチ、テーブルがあると良いと思いますか？



通り沿いにキッチンカーが出店していたら、利用したいと思いますか？



通り沿いに街路樹や花壇、観葉植物などの緑があった方が良くと思いますか？



5 考察(滞留空間の機能)

- ポケットパーク内の既存のスツールはほとんど利用されていないことから、滞留空間の利用を促進するためには、デザイン性の高いストリートファニチャーを設置することが有効であると考えられる。

既存のスツール



社会実験で設置したベンチ(デザイン性の高いストリートファニチャー)

- ベンチについて、来街者のグループあるいは個人が思い思いに利用できるレイアウトに調整した後のほうが利用者の増加があったことから、ストリートファニチャーは、気軽に利用できるレイアウトにすることが有効であると考えられる。



配置のイメージ

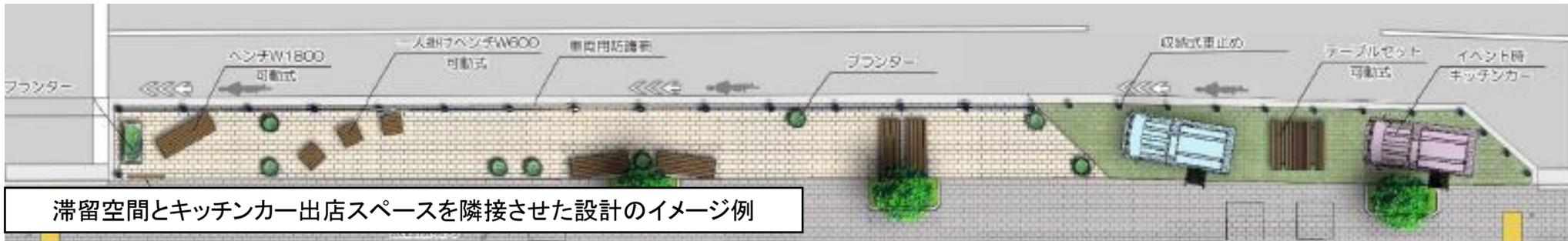
5 考察(滞留空間の機能)

(2)レイアウトについて

- 今回の出店場所は目立たなかったと考えられる。また、十分な歩道幅を確保するために、キッチンカーの位置と休憩スペースとを20m程度離れた場所に設定したが、一方で、2022年9月16日、17日に(株)町田まちづくり公社が実施した民間交番利活用に向けた社会実験では、同じ場所(ポケットパーク)で、キッチンカーと滞留空間を隣接させて設置し、多くの利用があった。



- 社会実験の結果から、来街者が足を止めてみたくなる魅力的な空間にするためには、キッチンカーの出店スペースは滞留空間と隣接させ、通りの表に面した場所に設置することが効果的であると考えられる。



- 当初、懸念されていた滞留空間内のゴミは想定していたよりは少なかったが、カウンターテーブルの裏やパネルの裏など死角になる部分で喫煙があり、吸い殻が毎日捨てられていた。ゴミが捨てにくいようにストリートファニチャーのレイアウト等を工夫する必要がある。

5 考察(滞留空間の機能)

- 原町田大通りでは、街路灯を利用したバナーフラッグによる景観創出を行っている。これに加えて、原町田大通りと滞留空間のガードパイプにデザイン性をもたせるなど、滞留空間の視認性と通りとの一体性を高めることで、歩いてワクワクできる、芹ヶ谷公園まで続くウォーカブルな通りにすることも考えられる。(例:木材を使用したガードパイプなど)



滞留空間と道路を隔てる木材を使用した温かみのあるガードパイプのイメージ例



間伐材を使用した木製防護柵の例(新宿区ホームページより引用)



社会実験時に掲出したバナーフラッグ

5 考察(滞留空間の機能)

(3)日常管理について

- 社会実験の実施にあたり、滞留空間で夜中に騒ぐ、個人の所有物が放置されるなどの懸念が地元の事業者や町内会・自治会等から上がっていた。タイムラプスカメラや毎日の清掃時に確認したところ、今回の社会実験中はそのような事例は見られなかった。
- 社会実験中は町田市シルバー人材センターに清掃を委託したが、滞留空間整備後の休憩スペースの日常的な管理・清掃等の運用については、今後検討する必要がある。



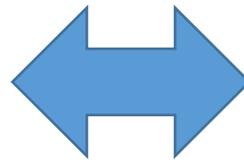
エリマネ団体に加入する地元店舗によって管理されている事例(新虎通り)



5 考察(滞留空間の機能)

(4)貸出スペースとしての機能について

- 滞留空間の貸出では、ベンチを動かすことでよりフレキシブルな活用ができた。滞留空間のイベント等での利用、貸出を見据え、可動式のファニチャーの設置が有効と考えられる。
- 滞留空間の幅広い活用のために、滞留空間の区画貸出を見据えて空間デザインを行う必要がある。



ファニチャーの配置を自由に変更できるイメージ

6 2021年度原町田大通り社会実験について

(1) 概要

都市再生推進法人である(株)町田まちづくり公社とともに、原町田大通り上に「パークレット※1」を設置し、訪れた方による日常的な使われ方を検証した。

※1…車道の一部を転用した、滞留空間のこと。

【日時】2021年11月20日(土)～12月20日(月) 午前8時～午後6時

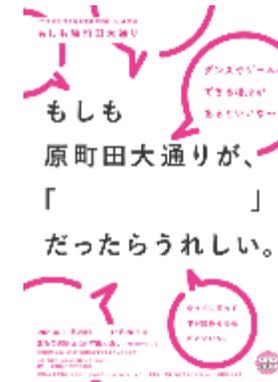
(2) 滞留空間の振り返り



- ✓ 休憩、飲食、読書などさまざまな使い方がされ、普段の原町田大通りでは目にすることのない賑わいや交流が創出された。
- ✓ 滞留空間の利用者調査では、社会実験時の滞留空間が「良かった」と回答した人は50%（「良くなかった」は3%と少数だった）。
- ✓ 滞留空間周辺の歩行者調査では、社会実験時の滞留空間を「利用してみたい」と回答した人は56%（「利用することはない」は12%と少数だった）。
- ✓ ステッカーによる意見収集では、原町田大通りに休憩場所や座れる場所、緑、自然、オープンカフェがあるとうれしいという意見が多くあった。



- ✓ 高さがある設置物(トレーラーハウス、オーニング)によって、近隣店舗の視認性を低下させる等の影響を与えてしまった。
- ✓ 集客を目的としたイベントは、歩行者の妨げになってしまった。



7 滞留空間整備の方向性について

2021年度および2022年度の社会実験の結果をふまえ、滞留空間整備の方向性を検討する。

滞留空間整備の方向性：

沿道に賑わいが生まれ、来街者の憩いの場となる滞留空間を整備する。

- ① 視認性を確保するため、歩道拡幅部に滞留空間を整備する。
- ② キッチンカー出店等のための車の乗り入れスペースを滞留空間に隣接させて設ける。
- ③ 滞留空間内にはデザイン性が高いベンチ等を設置する。
- ④ 滞留空間の幅広い活用のために、設置するベンチ等は、配置が変更できるものにする。
- ⑤ 高さのあるものは設置せず、道路上の設置物は歩行者の通行を妨げないように配慮する。